

施策	4101 地域医療の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民							
施策が目指す姿	地域の医療機関や中核病院等の充実、地域拠点等における医療福祉機能などの充実、かかりつけ医の普及・啓発、市民への適正受診の普及啓発を図る。							
成果指標	人口10万人当たりの医師数...5年間(平成25年度～平成29年度)で150人(現状値119人)							
目標達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	成果指標1 [人]	予定	119.00	119.00	119.00	150.00	150.00	
		実績	119.00	119.00	115.30	115.30	123.00	
	成果指標2 []	予定						
		実績						
	成果指標3 []	単位コスト						
		予定						
	成果指標4 []	実績						
		単位コスト						
	トータルコスト(千円)	予定	1,837,038	2,632,981	1,964,182	508,259	508,976	
実績		1,515,871	2,532,577	1,814,261	514,463	508,958		
内部評価	貢献度	上位施策の「地域医療の市民満足度」等を向上させるためには、医療機関等の充実により医師の確保を図ることが重要であることから本単位施策の目標達成による貢献度は高い。						
	達成状況	とちぎメディカルセンターが本格稼働し2年が経過した。診療体制の強化に取り組んだ結果、医師数の増加が図れた。						
	課題	地域医療の充実を図る上で、医師確保に向けた環境は整いつつあるが、全国的にも医師不足は深刻である。						
	取組方針	地域医療充実のため、医療機関と連携を図り医師確保の働きかけを行う。						
外部評価	<p>人口10万人あたりの医師数は、とちぎメディカルセンターが稼働しても4名しか増加せず目標に達していない。医師不足の解消に向けた具体的な取り組み内容がみえない。</p> <p>医師の確保や産科の開設の具体的な取り組みを方針に示すべきであり、産科の開設が難しいのであれば、助産師を活用した取り組みも検討すべき。</p> <p>今後も安定した質の高い医療を提供していくために医師の確保に努め、安心して医療が受けられる体制づくりを期待する。</p> <p>かかりつけ医の普及・啓発は在宅医療の推進に向けて積極的な取組みが求められるため、医師会の協力を得て取組む必要がある。</p>							
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名称				トータルコスト(千円)	達成度	
	273201	地域医療対策基金積立金				1,503	100	
	273301	栃木地区病院統合再編事業費				6,705	100	
	273401	とちぎメディカルセンター運転資金貸付金				500,750	100	

平成29年度 単位・基本 施策評価表 補表

施策	4101 地域医療の充実		
区分	妥当性	妥当	医療体制の充実を図るため、必要な事業であり妥当である。
	コスト削減の余地	無	メディカルセンターの運営状況により、必要な支援を行っていく。
	受益者負担	適正	地域医療の充実のための支援策であり、受益者負担は求めている。
	上位貢献度	有効	地域医療の市民満足度に直接つながることから貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	類似事業はない。
	成果向上の余地	有	引続き医師確保を推進し、市民満足度の向上を図る。
内部評価 【H29年度分】	貢献度		
	達成状況		
	課題	地域医療の充実には、更なる医師確保が必要。	
	取組方針	医師会と連携し、かかりつけ医の普及・啓発、在宅医療の推進を図り、大学病院等関係機関に医師確保に向け働きかけを行う。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	基本施策の医療体制の充実には、地域医療の充実の貢献度は高い。平成28年3月にとちぎメディカルセンターの各施設整備が終わり4月から本格稼働となった。このことは、市民アンケートの結果のとおり高い満足度を示し期待の大きさを感じる。	
	達成状況	地域医療についての市民満足度は、平成28年12月に行ったアンケート調査において60%となった。更なる満足度の向上を目指すとともに地域医療の充実を図る。	
	課題	地域医療の充実には、更なる医師確保が必要であるが、全国的に医師不足である。	
	取組方針	限られた医療資源を最大限活用できるよう医師会や関係機関と連携を図るとともに、かかりつけ医の普及や在宅医療を推進し、医療体制の充実を目指す。	